



TITLE:

『星座の歌』 正誤

AUTHOR(S):

平松, 閑月

CITATION:

平松, 閑月. 『星座の歌』 正誤. 天界 1931, 11(118): 157-157

ISSUE DATE:

1931-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161618>

RIGHT:

『星座の歌』 正誤

拜復、今日は思ひもよらぬ御冊子を給はり、難有頂戴仕りました。早速懇意家に進呈致しました。小老の名譽是れに過ぐるものではありません。誠に恐入りますが、活字の植違が少しありますので、下記の如く御正誤が願ひたいのです。夫は歌の番號 1. 麒麟[●]まわりて[○]は[○]まもりて[○]なり。11. 初[●]影は初朝[○]なり。15. [○]蛇さへも[●]は[○]蛇さへに[○]なり。24. [○]ゆたかに[○]は[○]ゆたに[○]なり。前記の内にて、是非御訂正を願はねばならぬのは、1 の[○]わ[○]を[○]も[○]に直すのです。是は[○]わ[○]では物にならんのです。11. 15. 24の三つは歌人としていふ言葉でないから改めるので、今の儘で通じぬ事はないのです。只歌人に詞の笑ひを受けるまでの事ですから、こらへればこらへてもよろしい。

今一つこらへられぬのは、履歴中、犬養先生の文中「繼百代垂統文學」とあります。是は[○]文[○]の字は[○]之[○]の字です。是は犬養先生の名にかゝはりますから、是非御正誤を願はねばなりませぬ。甚だ御手数に候へども宜敷御依頼申上げます。

先は御厚禮旁々如此に御座候 敬具

昭和五年十月七日

平 松 閑 月

水 野 幹 事 殿

追伸 357 頁の 10 行目 [●]夫から其の分の星座の右傍に[●]此の印を付し[○]とあります、[○]其の分[○]は[○]其の歌[○]であります、是非御正誤を願はねばなりませぬから、よろしく願上けます。

右は特別なる思召を以て、被爲下候ものを餘り我儘を申上げて甚だ相濟みませぬ。

追て此の抜刷を懇意家に進呈するに就いては、これを機會に同好會員を進めたいのです。兎も角もよいものを頂戴いたしました。